

心のノート

No.10 2022年(令和4年)1月19日(水)



3学期最初の1月12日(水)の道徳は、『「どうせ無理」という言葉に負けない』という教材から考えました。ロケット開発に取り組み、小説及びドラマ「下町ロケット」のモデルにもなった北海道赤原市にある産業機器メーカー植松電機の代表取締役植松努さんのエッセイが教材となっていました。作者の生き方や考え方は生徒に多くの気づきを与え、深く自己を見つめるきっかけとなったのではないのでしょうか。

【生徒の学んだこと、印象に残ったこと、考えたこと、感想より】

*僕は今日の道徳で学んだことは3つあります。1つ目は夢を追うことです。

なぜかという自分の夢を追うことは、自分の目標としてできるからいいことだと思います。2つ目はあきらめないことです。なぜかという、夢や希望を諦めることは努力を0にすることなので気をつけようと思います。3つ目は最初から「できない」という考えを無くすことです。理由は自分の今後の努力を無くすことだからです。今度からやめていきます。

*私は夢を実現するために大切なことを考えました。1番大切なのは夢をあきらめないことだと思います。「どうせ無理。」とやる前から決めつけてやらないと夢をかなえられません。諦めないことだけでなく、努力も必要だと思います。今日の道徳で学んだことを、夢をかなえられるために大切にしていきたいです。

*挑戦するのに、「どうせ無理」とできる可能性を否定し、できない可能性を信じてしまっは絶対に成功できない。挑戦するなら少しでもできる可能性があるならその可能性を信じる事が大事だと思う。

*私はこれから「どうせ無理」というとらわれた考えを無くして自分の考えを大切にしようと思いました。

*「どうせ無理」ではなく「こうしよう」でチャレンジしていきたい。